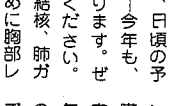
健康守るため――＊ 受けよう！市民検診

4月から始まります



健康を守るには、日頃の予防が大切です。――今年も、「市民検診」が始まります。ぜひ進んで受診してください。

市民検診では、結核、肺ガンの早期発見のために胸部レントゲンを、また糖尿病や腎臓病、高血圧の発見に血圧測定と検尿を実施します。――年に一度の検診です。あなたの健康管理にぜひこの機会をご利用ください。

〝自分だけは大丈夫〟？ 欠かせない検診――この機会に受診を

成人病の増加で見落とされがちな結核患者の状況を昨年の市の実態からお知らせしますと、患者の総数そのものは二百十九名と年ねん減ってきています。また患者の年齢層を見ますと、六十～七十歳台が半分を占めており、「結核は老人が多い」の定説のようになっています。

ところで、昨年新たに結核と診断された人は三十八名でした。そのうち発見の時点で菌が出ていた人が十一名もあり、知らないうちに感染する危険性をもっていたわけです。また、このうち過去三年間一度も検診を受けなかった人が十二名いました。

〝自分だけは大丈夫〟と安心はできません。検診を受けたいものです。特に老人の方や主婦の方は率先してお出かけください。

日程確かめて進んで受診を

今年の市民検診は、四月から七月までの間に実施しますが、検診日程は先に区長さんを通じて各世帯に配布しました「市民健康診断実施計画表」のとおりです。――ご自分の地域の日程をよく見てお出かけください。

四月は北上地区をはじめとして、上の表の地区で行います。対象地区の人は忘れずに受けましょう。

受診の際には、これから配布します「市民健康診断のお知らせ」の日程表の下についている「受診票」に住所、氏名などを記入のうえ受けてください。

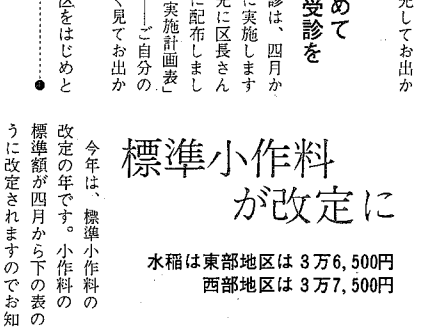
なお家族の方で受診されない方は「欠診届」に記入して保健課に提出するか、会場の受付けに提出してください。

※検診の結果、異常の発見された方には、一か月以内に連絡しますが、異常のない方には通知はいきません。ご承知おきください。

4月の検診日程表

日	会場	時間	該当町名
20	北上公会堂	9:30～12:00	北上2・3、北上新田、北潟
		1:00～3:00	北上1、下興野町
21	第三中学校	9:30～12:00	七日町
		1:00～3:00	満願寺、大蔵
22	市之瀬小学校	9:30～12:00	市之瀬、覚路津
	三枚潟公会堂	1:00～3:00	長割、三枚潟、三津屋
23	第三小学校	9:30～12:00	山谷町1・3、天神、美幸町
		1:00～3:00	山谷町2、古田
24	結小学校	9:30～12:00	結、田島
		1:00～3:00	川口、福島
27	第二中学校	9:30～12:00	荻島、車場
		1:00～3:00	中野
28	阿賀小学校	9:30～12:00	東金沢、大安寺
	中新田公会堂	1:00～3:00	中新田

東部・西部地区の略図



標準小作料が改定に

水稲は東部地区は3万6,500円
西部地区は3万7,500円

今年は、標準小作料の改定の年です。小作料の標準額が四月から下の表のように改定されますのでお知らせします。

この小作料を標準として、五十六年度作付け分から、貸し人、借り人の話し合いのうえに決めることになりますが、水稲の標準額は市の東部地区と西部地区で分かれています。なお、この標準額の三〇％を超える契約をした場合は、農業委員会が減額を勧告することになります。

ところで、農地法の一部改正により物納（保有米程度の飯米）も農業委員会の承認があればできることになりました。

水稲の標準小作料　（10a 当たり）

地区	地域	小作料の標準額
東部	新津、新関土地改良区の管掌地域	36,500円
西部	新津郷土地改良区の管掌地域	37,500円

普通畑（10a 当たり）

小作料の標準額
18,000円

特殊畑（10a 当たり）

小作料の標準額
32,000円

お買物、ご用命は市内で

花に託して心を贈る
慶弔用贈花・供花の御用命は
新町一丁目　小林生花店
TEL(2)―1080(2)―5707（各流派いけばな教室案内）

カメラ8ミリは3回～20回払い
気軽なカメラクレジットを
ご利用下さい
㈱コダカメラ店
〒956　新津市本町二丁目　☎(2)0583

明治夜話

(60) 鶴ケ城

Ⅰ 婦女薙刀部隊の輪廓

会津の婦女薙刀隊について、先ず、その概要を述べてみよう。

慶応四年八月廿三日朝、官軍の鶴ケ城下への侵入が余りにも早かったために、入城に遅れた中野平内の妻孝子（四四）、長女竹子（二二）、次女優子（一六）は、追手門から引返し、河原町口の郭門から城下に向おうとした時、はからずも依田まき子（三五）とその妹菊子（二二）に逢い、次いで岡田さき子（三〇）に会った。

前に「照姫様は既に坂下に立退かれた」と聞いていたので、照姫様を守護し奉ろうと、話は一決して、共に坂下に向かった。

翌廿四日、坂下に在った藩の軍事方の宿陣に赴き、従事を懇請したものの許されなかったが、軍事方の者は彼女等の至誠に動かされ、「明日古屋佐久左衛門の率いる衝鋒隊が若松へ向かって進撃することになっているから、それに加わって思う存分働くように」と教えてくれたので、一同は前日泊った法界寺に引き上げて明日を待っていた。

廿五日朝、竹子等は手に手に薙刀をもって、衝鋒隊の後に隨って、若松郊外の柳橋に迫り、柳橋の内側を固めていた長州・美濃・大垣の連合の敵陣を突破して若松の街に入ろうとしたので、両者の間に激しい戦闘が開始され、婦女隊の者もその薙刀を以って奮戦していたが、敵の一弾が竹子の胸を貫いて之を斃してしまったので、妹の優子等はその首を斬って、一先ず退いた。

敵陣突破に失敗した衝鋒隊は退いて、高瀬村に向かったので、婦女薙刀隊も之に従った。

高瀬村に引き揚げた婦女隊は家老菅野権兵衛の勧めもあり、八月廿八日、鉄砲をもった足軽数名に護衛されて、巧みに官軍の包囲網を潜り、無事入城することができた。

この婦女達は老藩公松平容保に拝謁を許されて、その勇戦を称揚された。また、照姫にも目通りを賜わり、大いに面目を施し、その後、城内で傷病兵の看護、炊事、弾薬の製造運搬等の作業に従った。

Ⅱ 中野竹子

婦女隊の中心人物は中野竹子であった。竹子は会津藩士中野平内の長女で、平内は江戸常詰であったので、竹子は嘉永三年三月、江戸和田倉の会津藩の藩邸に生まれた。母は下野国足利の領主戸田七之助忠行の家臣生沼喜内の娘で孝子と言った。婦女隊員の中野優子は竹子の妹である。

後年、この優子の語るところによると、竹子は江戸にいた七、八歳の頃から赤岡忠良先生の門に入り、習字や剣道を習い、先生が大阪の御蔵奉行として赴任の際に、養女に懇望され大阪へ行った。

鶴ケ城の女達 (一七)

阿達義雄

赤岡家では、竹子を赤岡の甥と結婚させようとしたが、当時、竹子は天下の形勢や会津藩の立場を深く考えていたため、結婚をする意志がなく、自分の家に復籍させて貰い、その後、戊辰戦の始まる三年ばかり前迄、備中、松山藩主板倉勝静の姫君の祐筆として奥勤めをしていた。

父の平内は容保公が会津にお国入りの時にお供をして帰り、中野家の家族の者も少し遅れて若松に帰ったが、中野平内は今迄永い間、江戸常詰であったため屋敷がなくなっていたので、親戚の好意によって、米代三ノ丁の田母神金吾（百五十石）の書院を借りて住むことになった。

この頃、赤岡先生も江戸から帰り、坂下で道場を開いていたので、竹子も、またそこへ行き、剣道の稽古をしており、その頃の赤岡道場には門弟が三十人もあったという。

竹子が若松に帰宅したのは、八月廿三日の少し前であった。十六橋の防備が破れ、官軍が鶴ケ城下に侵入して来た日には、中野家の母子三人は既に予め覚悟をしていたので、髪を切り、田母神邸を後にして出発したのであった。この時竹子は二十二歳、優子は十六歳であった。

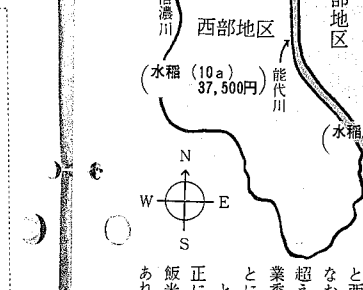
八月廿三日、入城を知らせる割場の鐘を聞くと、孝子、竹子、優子の母子三人は、愈々会津藩の一大事が襲来したと、死を決して城に向かった。

優子はこの時のことを、「何れも定紋をつけた袷に、大口の袴を着け、柳腰に帯刀をし、白布をもって鉢巻をなし、同じ布をもって襷を十文字に綾なし、薙刀を小脇に携へて、母を先頭にして屋敷を駈け出した。」と語っている。

この頃、既に各所に銃砲声がとどろき渡って物凄い有様であった。急いで西出丸の濠端まで辿りつき、人々に照姫の安否を聞いてみると、姫は早くから坂下に立ち退かれたとの話であった。

大いに驚いて、なお、戦況を聞いてみると、敵は既に北追手に押し寄せ、味方は必死で防戦はしているが、危険に瀕しているということであったから、竹子等は、一刻も早く入城して働こうと考えたが、その時、早くも城門が閉じられてしまった。

（新潟大学名誉教授）

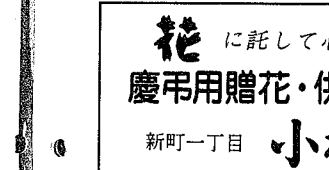


「ピッカ ピッカの……」
今井　良枝（2年）
新津高校マンガクラブ

お買物、ご用命は市内で

≪新製品≫
サンス・ノアール
500円・1,200円
2,200円・3,200円

にいつオーサカヤは新しい感覚の
素適なおかしを作りました。
パリッとするサブレーに
甘いレーズンクリームを
サンドしました。



にいつオーサカヤ　本町2　TEL2-0112